



授業に現場の情報を 愛建協が工業系高校の先生対象に見学会

愛知県建設業協会は27日、建築や土木などの工業系高校の教員を対象とする2012年度の工事現場見学会を開いた。8校から30人が参加し、第2東名がJR飯田線と交差する豊川橋跨線橋の新設工事（名工・銭高JV）と、境川流域下水道の境川浄化センターポンプ棟築造工事（近藤・関・吉原JV）の現場を訪れた。

工業系高校で建築や土木を生徒に教えている先生たちも、普段は実際の現場を目にすることが少ないのが実情だ。そこで同協会では見学会を毎年開いている。

愛知県立豊橋工業高校土木科の菅原正之先生は「教室で教える工法や機械が実際にどう使われてるか見て、授業で生徒に説明している」と話していた。

また、名古屋市立工芸高校の足立透先生は「安全対策などは昔とはまったく違っている」と、見学会で情報を得る意義を話してくれた。